



『利府梨』の伝統を未来へつなぐ、 新たな担い手たちのチャレンジ。

町内のある梨農園で、収穫前の摘果（てきか）や水まきに汗を流す3人。『利府町の梨農家さんから頂いた『利府梨』が驚くほど美味しくて、多くの人に食べて欲しいと思った」と石井さん。加藤さんは東京のイベントで利府町の



利府町地域おこし協力隊：梨部門

（左から）加藤 雄一朗さん 石井 航さん 佐藤 穰司さん

加藤 雄一朗：1985年生まれ、塩竈市出身。工場勤務を経て令和6年4月就任。
石井 航：1988年生まれ、仙台市出身。運送業を経て令和6年2月就任。
佐藤 穰司：2001年生まれ、仙台市出身。不動産関係の仕事を経て令和7年4月就任。
『利府梨』農家の担い手としての自立を目指し、栽培から販売までの習得、また新たな魅力づくりに取り組む。

十符人

「十符人（とふと）」では、毎月、利府の魅力づくりや魅力発信に貢献している方を取り上げていきます。

地域おこし協力隊募集内容を知り、利府町に家族で移住。「前の仕事は残業や夜勤が多く、家族と過ごす時間を大切にしたい」と。佐藤さんは、「もともと農業に興味があつて地域おこし協力隊を知った。利府町の職員の方々の熱意や、先輩協力隊の方が梨農家として活躍している姿に可能性を感じた」と話します。そんな3人が口をそろえて

るのは、利府町の支援体制の手厚さ、そして豊かな自然環境や暮らしやすさ。若手梨農家の方々の情熱にも惹かれたと言います。「梨栽培の基礎を身につけ、『利府梨』の伝統を誇れるような美味しい梨を育てたい。まずは妻と二人で梨農家として自立していくことが目標」と加藤さん。石井さんは「梨のもぎ取り体験など、梨を観光資源として活用したい。また、より多くの人が梨栽培に取り組めるような新しい栽培方法にも挑戦したい」と話します。「利府町は、ここに住んで、ここで働きたいと思う街。地域の梨農家の方々の想いを受け継ぎながら、自分なりのスタイルを創っていききたい」と佐藤さん。「この秋は、ぜひ直売所に足を運んで、『利府梨』の本当の美味しさを味わってください」とのメッセージをいただきました。



早生種で8月上旬から収穫できる香麗（こうれい）の摘果に励む加藤さんと佐藤さん（左）、石井さん（右）

※1：たくさん実った果実を間引きし、残した果実に十分な栄養を行きわたらせること。

Good Movement 活動日記 Vol.19

地域おこし協力隊

総務省地域おこし協力隊制度を活用し、利府町の活性化と社会起業家の育成を目指すプロジェクト



公式LINE

キッズ運動教室開催しました！

7月24日（木）、リフノにてキッズ向けの運動教室を開催しました。講師は元プロ野球選手であり、スポーツプロジェクトで活動している土屋さん。当日はたくさんの子どもたちと走ったりミニゲームをしたり、全身を使って楽しく体を動かしました。「運動の楽しさを知ってもらい、今後運動するきっかけになれば嬉しいです」と土屋さん。夏休みの思い出に子どもたちの笑顔があふれる時間となりました！



地域おこし協力隊、4部門交流会開催！

利府町には、実は4つの地域おこし協力隊の活動部門があるのをご存じですか？「梨業」「海業」「移住コーディネーター」、そして私たち「賑わい創出部門」。それぞれのフィールドで町を盛り上げようと日々活動しています。そんな協力隊メンバーがこのたびプライベートの時間を使って、初めての交流会を開催！ほぼ全員が集まり、それぞれの想いや得意分野を語り合いました。これからも部門をこえたつながりを活かし、町のにぎわいづくりや持続可能なまちづくりの一助となるよう、力を合わせて活動していきます！



広報りふ RIFU 令和7年9月号 No.602

編集発行/利府町企画部秘書政策課 秘書広報係

〒981-0112 宮城県宮城郡利府町利府字新並松4番地

☎022-767-2112 FAX022-767-2101 ✉hisyo406@rifu-cho.com

編集後記

今月号では、利府町とガーナ共和国との交流の様子を特集しました。取材を通じて、言葉や文化の違いを超えた繋がりを感じました。町としてもガーナの「アクワバ（ようこそ）」の気持ちで歓迎することができました。

広報りふWEB版

